

第87話



コルブの経験学習論って 学習プロセスじゃないの？

- もちろん、学習プロセスです。具体的な経験から始まり、それを多様な観点から振り返り、他の状況でも応用できるように概念化し、新しい状況の下で試してみる。具体的経験→省察→概念化→試行の4段階を繰り返して学習が進むという説です。
 - Google 検索トップヒット：[ブログ J-center](#)・[富士ゼロックス総研](#)
 - 松尾睦「[経験からの学習](#)」・中原淳(編)「[企業内人材育成入門](#)」
 - 向後千春 [コルブで自分の実践を振り返る](#) (Bbカンファレンス2008)
- いいえ、学習スタイル論です。4段階のどれを好んで使うか・どれが得意かでその人の学習スタイルが決まるという説です。日本では軽視??
 - [コルブ学習スタイル診断](#)というのを会社で受けてきた(ブログ)
 - 吉田新一郎：[検索したけどなかった](#)・ヒゲ講師：[いいものを見つけた](#)
 - [コルブの4つの学習スタイル\(図\)](#)・Webで見つけた[英語版の総合図](#)
- 大学のeラーニングですべきことは何？
 - [学生の多様性に対応し、学生の守備範囲を広げる](#)

マネジメント・キャリア・人事～ブログJ-center～

- デービット・コルブという学者が「経験学習モデル」という理論を提示しています。経験を通じての学習プロセスを以下の4段階で整理し、これがサイクルとしてまわすことにより、経験から学習することができるという考え方です。
 - ① Concrete Experience (具体的な体験)
↓ 具体的な経験をする。
 - ② Reflective Observation (内省的な観察)
↓ その内容を振り返って内省する。
 - ③ Abstract Conceptualization (抽象的な概念化)
↓ そこから得られた教訓を抽象的な仮説や概念に落とし込む
 - ④ Active Experimentation (積極的な実験)
↓ ③で得られたものを新たな状況に適用させて行動してみる
(以降、①に戻ってサイクル化)

(続く)

<http://jqut.blog98.fc2.com/blog-entry-182.html>

マネジメント・キャリア・人事～ブログJ-center～

- おそらく人は経験から学習をする際に、このサイクルにのっっていることが多いのかと思います。ここでまず大事なものは3つのことです。
 - ①何よりも行動をしてみなければ始まらない
 - ②単に行動をするだけでなく、それを振り返ることが大事
 - ③単に振り返っているだけではなく、それを次の行動に振り向けることが大事(中略)
- 「経験学習」に興味のある方には、以下の書籍がおすすめです。



経験からの学習-プロフェッショナルへの成長プロセス-

(2006/06/23)

松尾 睦

<http://jqut.blog98.fc2.com/blog-entry-182.html>

[ホーム](#) > [共想・知創](#) > [フォーラム](#) > [事象・理論からの考察](#) > [経験から学ぶ](#)



株式会社 富士ゼロックス総合教育研究所

- 社会人の能力開発の70%以上は現場での経験によって説明されるといわれています(注1)。つまり、伝統的な研修、すなわち教室でなされる知識伝達型の研修が能力開発に寄与する部分は僅かに過ぎず、大半が業務経験によってもたらされるのです。(中略)
- 経験学習をテーマとした研究や指南書に**必ず**といっていいほど引用される**理論が、コルブ(D.A Kolb)の経験学習理論**です。コルブは、レヴィン(K. Lewin)やピアジェ(J. Peaget)などの経験主義者らの研究を発展させ、経験学習理論を提唱するに至りました。
- **その中核は、「具体的経験」、「省察」、「概念化」、「試行」の4段階からなる学習サイクル**です。

結構詳しく書いてある。お勧め!

http://www.fxli.co.jp/co_creation/forum/consider/000254.html



松尾睦(2006)「経験からの学習—プロフェッショナルへの成長プロセス」同文館出版

- 学習を「**経験を変換することで知識を創り出すプロセス**」と定義
- 4つのステップから成る経験学習モデルを提示:個人は①具体的な経験をし、②その内容を振り返って内省することで、③そこから得られた教訓を抽象的な仮説や概念に落とし込み、④それを新たな状況に適用することによって学習する
- ここで重要なことは、経験そのものよりも、経験を解釈して、そこからどのような法則や教訓を得たかということ。言い換えれば、たとえ二人の人間が同じ経験をしたとしても、**経験の解釈次第で学習内容は異なり、その後の行動も変わる**といえる。(p.62)
- デューイが主張する「**経験の連続性**」が前提:過去の経験を通して獲得した知識やスキルが、その後の経験の質を何らかの仕方で修正する螺旋状に連続
- **管理職の経験学習を説明する理論の中でもっとも影響力を持ち、教育、心理学、医学、看護、一般マネジメント、コンピューターサイエンス、会計、法律といった幅広い分野に応用**(p.63)



中原淳編著(2006)「企業内人材育成入門一人を育てる心理・教育学の基本理論を学ぶ」ダイヤモンド社

- 1980年代後半、コルブが提唱する「経験学習」という概念が、ビジネス分野で注目を浴びた。その理由は、この概念が学習を「知識の修得と、その応用」とは見なしていないことにある。コルブにとって学習とは、知識を受動的に覚えることではなく、「自らの経験から独自の知見(マイセオリー)を紡ぎだすこと」である。そして、このような学習観に基づき、コルブは**実践・経験・省察・概念化**という**4ステージ**からなる「経験学習モデル」を提唱している。(p.83)

→実践を先に書いているのが特徴？

- 学習とは終わりになきプロセスであり、4ステージのサイクルを継続すること自体が学習と見なされているのである。そして、**このサイクルを継続するという実践のスタイルを体得することが、「学び方を学ぶ」ということを意味する。**(p.84)

向後千春 コルブで自分の実践を振り返る

•向後千春(2008.11.28)eラーニングと教室授業の融合:次の大学教育の形(招待講演 2)

「Bbカンファレンス2008 in 沖縄」

<http://csklc.jp/event/081128.html>



「せっかくオンデマンド授業を受けたのだから、教室授業も出よう」

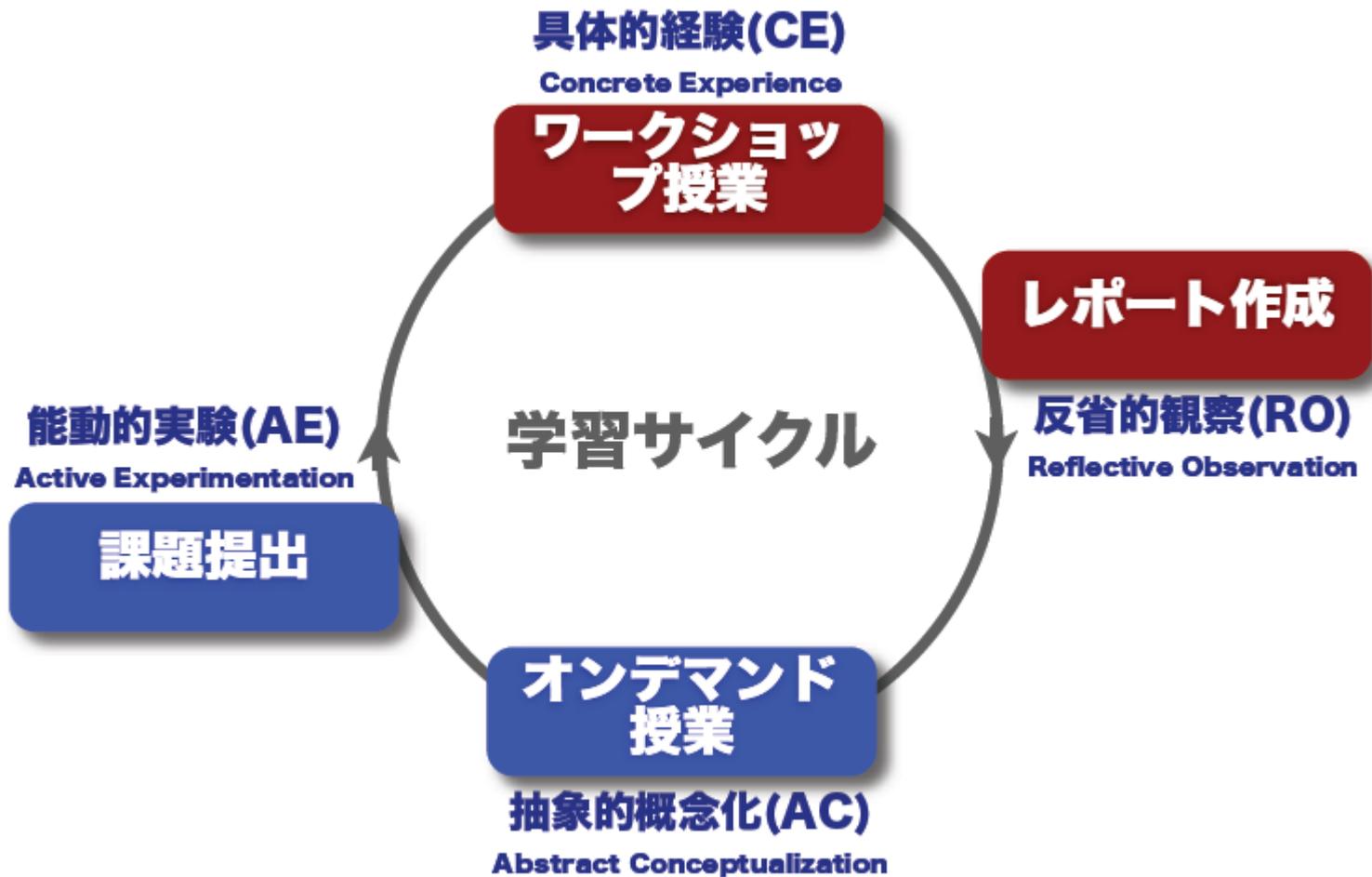
「教室授業が楽しかったので、オンデマンド授業を受けてまた出よう」



http://csklc.jp/event/081128/waseda_kougo.pdf



Kolbの経験学習理論



http://csklc.jp/event/081128/waseda_kougo.pdf

「コルブ学習スタイル診断」というのを会社で受けた 中小企業診断士ペパチエの議

<http://redwing-don.jugem.jp/?eid=438>

- これは、「人は学習するとき、以下の4つのステップをサイクル化する」というものであり、質問表に答えることによってどのステップを重視しているか／していないかが分かるというものである。
 - ①具体的な経験 Concrete Experience
 - ②観察と振り返り Observation & Reflection
 - ③抽象的概念化 Search for Underlying Theory
 - ④積極的な実践 Active Experimentation(中略)
- で、自分はぶっちぎりで③が高く、次いで②が少し高かった。この2つが高いのはassimilating(同化、消化、吸収などの意)というタイプに分類される。その特徴は「この学習スタイルの人は幅広い情報を理解し、理論的枠組みに正確に落とし込むとことが最も得意です。人間よりもむしろ抽象的なアイデアや概念に興味があります(以下略)」

鈴木専攻長の今日二度目のつぶやき...
(no.10)『いいもの見つけた。コルブの学習
スタイル論もカバー。青木久美子(2005)
「学習スタイルの概念と理論及びそれに基づ
く測定方法」NIME研究報告11
<http://p.tl/W3lx>』#gsis

12:17 AM Feb 23rd webから

1人がリツイート

<http://www.code.ouj.ac.jp/wp-content/uploads/05-11.pdf>



gsisOBOG

熊本大学教授システム学専攻同窓会



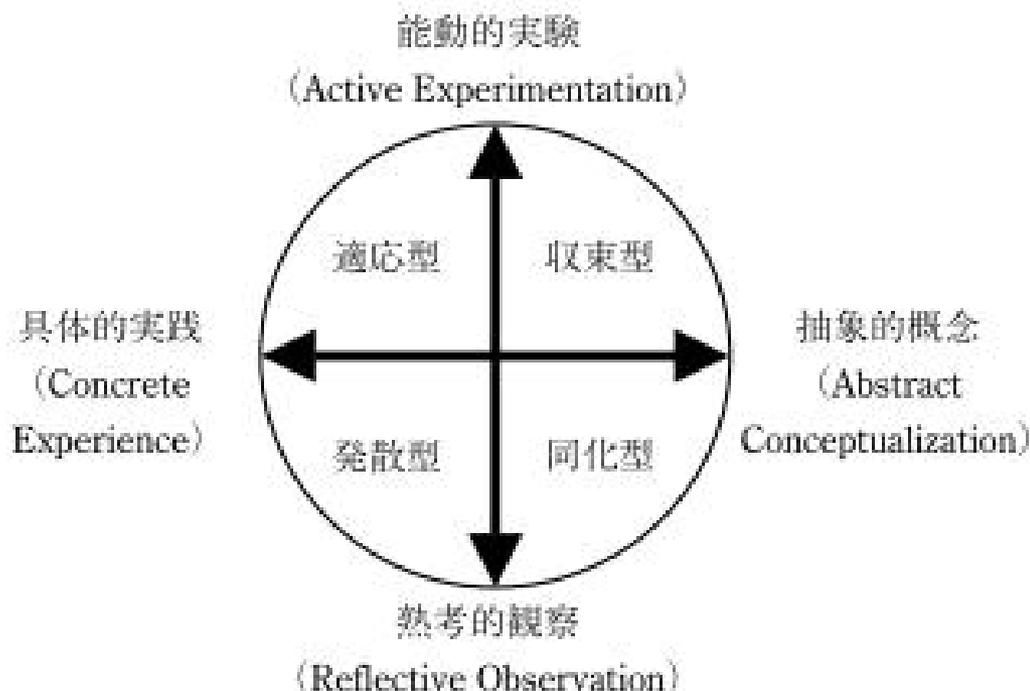
吉田 新一郎(2006)「効果10倍の“教える”技術 —授業から企業研修まで」(PHP新書)

- 学習者にあった教え方が重要
 - Learning Styleの日本語訳である「学習スタイル」「学びのスタイル」「学び方のスタイル」をインターネットで検索しましたが、ここで紹介するようなことに関する情報は一切載っていませんでした。(p.63)
- コルブのモデル—分かりやすい学び方の四分類
 - デイヴィット・コルブは、人は体験的に学ぶという前提のもとに、情報の認識の仕方を縦軸に、情報の加工方法を横軸に取って、四分円モデルをつくりあげました。(中略) コルブのモデルでは、人の学び方を大きく四つのタイプに分けています。それは、
 - ①見たり(観察したり)、聞いたり、読んだりして学ぶタイプ
 - ②じっくり考えることによって学ぶタイプ
 - ③動いたり、実際に試してみるによって学ぶタイプ
 - ④フィーリングや感情、直感などを大切にする形で学ぶタイプ
 - 教室という場合は、依然として「タイプ①」の学び方をする子どもたち以外にとっては、よく学べない教え方が主流 (p.65)



Kolbの4つの学習スタイル【図】

blog.iii.u-tokyo.ac.jp/y/lab/assets_c/2009/11/kolb1.html



1. 収束型 Converging:

問題解決, 意思決定, アイディアの実践に優れ, 技術的問題に取り組むことを好む

2. 発散型 Diverging:

状況を様々な角度から観察し, 価値や意義について考え, 人との関わりを好む

3. 同化型 Assimilating:

帰納的に考え, 抽象概念や理論的モデルを構築することを好む

4. 適応型 Accommodating:

新しいことに着手し, 直感的な試行錯誤によって問題解決することを好む

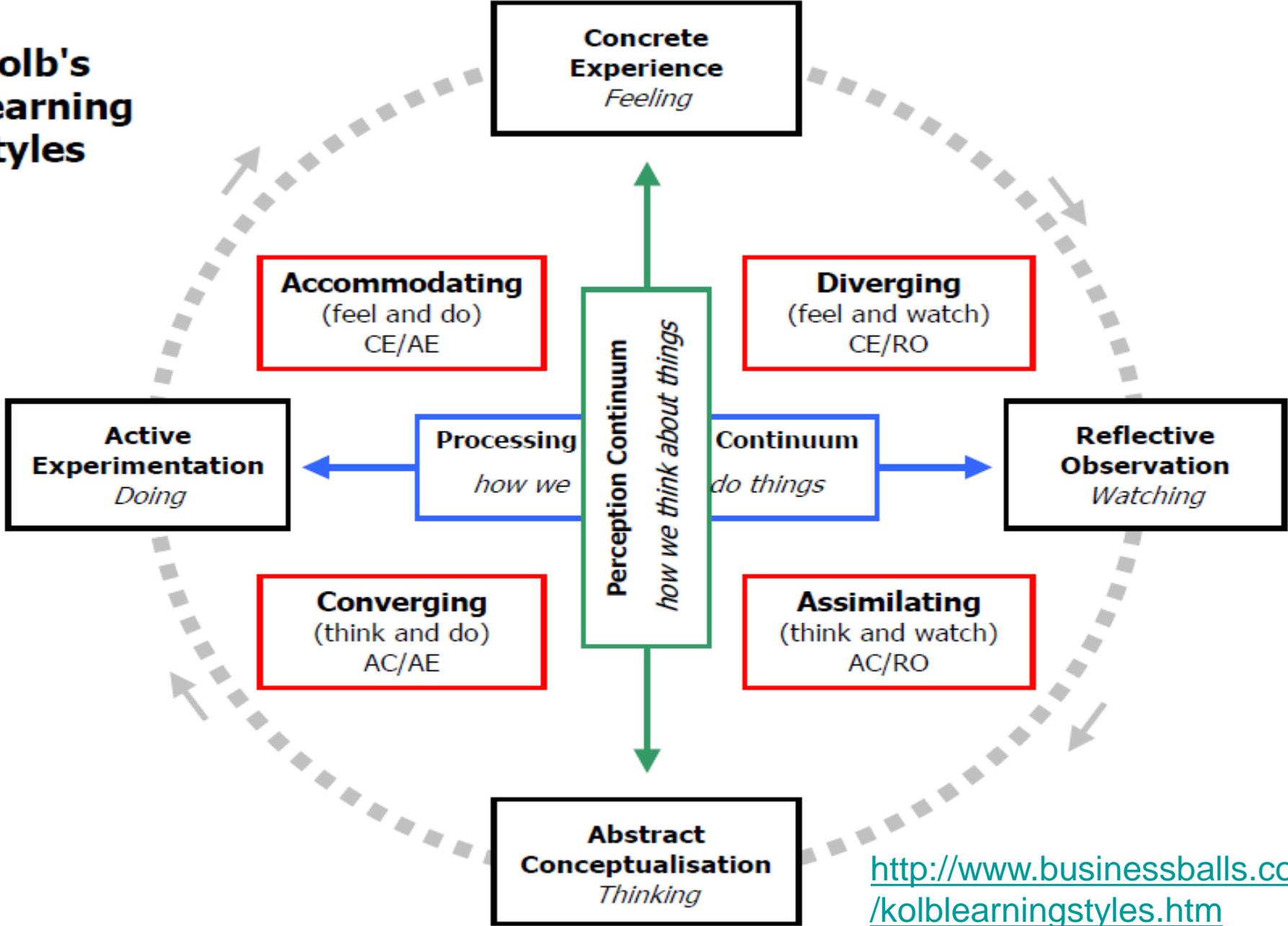
山内研究室ブログ【学びの大事典!】第7回「学習スタイル」

http://blog.iii.u-tokyo.ac.jp/y/lab/2009/11/post_198.html

出典: 青木久美子(2005) 学習スタイルの概念と理論—欧米の研究

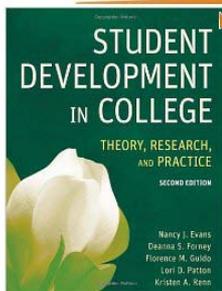
から学ぶ メディア教育研究 2, 197-212. 図7 <http://www.code.ouj.ac.jp/wp-content/uploads/05-11.pdf>

Kolb's learning styles



<http://www.businessballs.com/kolblearningstyles.htm>





学生の多様性に対応

学習の4段階	得意な学習活動	教員の役割
具体的経験 感じる	ゲーム・ロープレ・ディスカッションとフィードバック	コーチ・支援者
省察的観察 見る	講義・観察・多視点の提供・知識テスト	ガイド・マスター
抽象的概念化 考える	テキスト読解・個人学習・系統的提示	情報提供者
能動的実験 行う	フィードバック付練習・小集団討議・個別学習活動	ロールモデル

Nancy J. Evans, N. J., Forney, D. S., Guido, F. M., Patton, L. D., & Renn, K. A. (2009). *Student Development in College: Theory, Research, and Practice* (2nd Ed.). Jossey-Bass.



学生の守備範囲を広げる

- 要求されるスタイルを受容し伸長する職業選択へ向けた社会化プロセス
 - 学部・専門分野によって要求されるスタイルが異なる(例:物理・工学＝収束的、人文学＝発散的、基礎科学・数学＝同化的、ビジネスなどの実践学＝適応的)
- 学習スタイルを伸長できる場を提供すること
 - 学習スタイルは、可変である(発達3段階説)。個人の特性と環境から要求されることで決まる。
 - 学習スタイルの適応的な柔軟性を身につけること＝大人になることを意味する
 - 学生の多様性に応える様々な学習方法を準備すると同時に、不得意領域を経験させ伸ばす機会として、マッチする方法とマッチしない方法の両方を取り入れることが重要

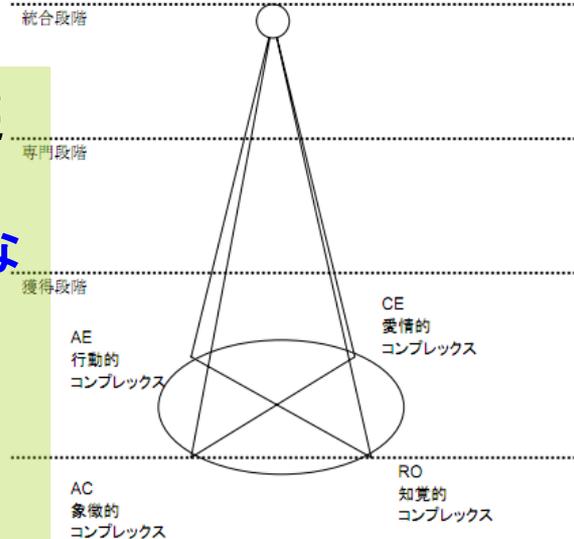


図8 経験学習の発達成長段階

経験学習の発達成長段階(獲得→特化→統合)

<http://www.code.ouj.ac.jp/wp-content/uploads/05-11.pdf>

Nancy J. Evans, N. J., Forney, D. S., Guido, F. M., Patton, L. D., & Renn, K. A.(2009). *Student Development in College: Theory, Research, and Practice* (2nd Ed.). Jossey-Bass.